

西郷菊次郎と永野金山



正装の西郷菊次郎



金山坑口からトロッコで運び出される金鉱石

関連するイベント（誰でも参加できます～料金無料）

第2回鹿児島県金山交流会

県内の鉱山を所有する市町村からの調査・活用事例発表等とパネルディスカッション

日時：平成30年2月8日（木） 受付：午後1時 交流会：午後1時20分から午後4時20分

場所 薩摩農村環境改善センター

講演会『西郷菊次郎とその家族 ―敬天愛人の母体「奄美」で生まれた菊次郎―』（仮題）

講師：奄美「西郷塾」塾長 安田 荘一郎 氏

日時：平成30年3月17日（土） 受付：午後1時 講演：午後1時30分から午後3時

場所：虎居地区公民館

展示期間 平成30年1月10日（水）～平成30年4月18日（水）
会場 宮之城歴史資料センター

開館時間：午前9時～午後5時

（午後4時30分までに入館）

休館日：月曜日

（月曜日が祝日の場合は翌日）

入館料：高校生・一般 210円（160円）

小・中学生 100円（50円）

未就学児 無料

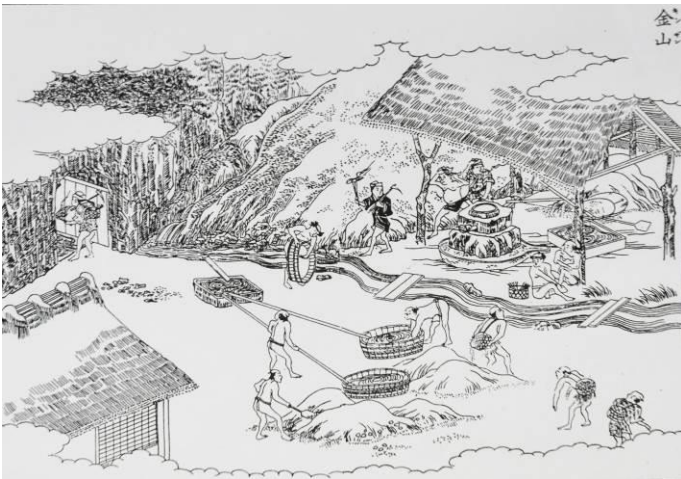
※（ ）内は20名以上の団体料金



永野金山は、薩摩藩にとって財政を支える重要な鉱山の一つでした。幕末から明治以降もその重要性は変わらず、明治45年(1912)には、西郷隆盛の子である西郷菊次郎が鉱業館館長に任命されました。大正8年、菊次郎が職を辞して鹿児島に去ると、地元永野には菊次郎の功績を称え頌徳碑が建立されました。今回の展示では、永野金山の概要と、菊次郎が鉱業館長時代に残した功績を中心とした資料を展示します。

江戸時代

永野(長野)金山は江戸時代、宮之城島津家四代当主島津久通によって発見され、近代以前の開発は山ヶ野側を中心に行われました。古文書や絵図を中心に、金山発見にまつわる経緯、伝説、薩摩藩の金山経営等について紹介します。



三国名勝図絵 金山



島津久通肖像画(個人蔵)

明治時代以降

明治時代になると山ヶ野・永野の金山は公爵島津家の所有となり、金山経営は鉱業館長をトップに近代化が図られました。中でも第七代鉱業館長五代龍作と第八代鉱業館長西郷菊次郎のときに永野金山の近代化が進みます。西郷菊次郎は永野金山に夜学校を設立し、青少年教育に力を入れ、人材育成に努めました。古写真や道具を中心に、近代の永野金山を紹介します。



胡麻目坑口と西郷菊次郎(尚古集成館蔵)



精錬所跡 明治時代